

2 B型肝炎やC型肝炎とは何でしょうか？

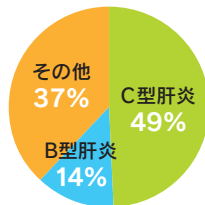
A それぞれB型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスが感染して起こる肝炎で、ともに肝硬変や肝がんのリスクになります。

● 肝炎ウイルスとは何ですか？

「肝炎ウイルス」は、人の肝臓の細胞に感染し、肝臓の炎症を引き起こすウイルスです。肝炎ウイルスにはA型からE型までありますが、B型肝炎とC型肝炎は特に注意が必要です。なぜなら、B型肝炎やC型肝炎は慢性化し、肝硬変や肝がんへと進行するリスクがあるからです。

肝がんの原因として右記のグラフが示す通り、約60%が、B型やC型肝炎ウイルスが原因と言われています。日本国内にはB型およびC型肝炎ウイルスの感染者はそれぞれ約100万人程度と推測されています。どちらも血液や体液を介して感染しますが、本人に心当たりがない間に感染していることも少なくはありません。

肝がんの原因



出典：日本肝臓学会
肝がん白書 R4年度より

肝炎について(予防)

● 自覚症状がないから問題ないでしょう？

肝臓は「沈黙の臓器」とも言われ、病気が進行してもほとんど症状はないため、本人が気づかないうちに肝臓の働きが損なわれていることもあります。

「肝機能の数値に異常がないし、自覚症状もないから問題ないだろう」と思っている場合、感染している可能性があります。そのまま放置しておくと、長期に渡って肝臓の炎症が続き(慢性肝炎)、肝細胞が壊れることによって肝臓の働きが悪くなり、やがて肝硬変と言われる肝臓が硬くなって、機能不全を起こす状態に進行したり、肝がんに進行したりするリスクも高まります。肝炎ウイルスは、誰が感染していてもおかしくありません。まずは一度、肝炎ウイルス検査を受けてみましょう。

A～E型の急性肝炎について知りたい

肝炎情報センター 急性肝炎

検索



<http://www.kanen.ncgm.go.jp/cont/010/kyuusei.html>

